

「黙示録21:3, 4」

神ご自身が  
彼らと共におられて  
彼らの目の涙を  
拭(ぬぐ)い取ってくださる

神は彼らと共に住み  
彼らはその民となる

# 「このままの姿で」

1. 小さな野の花でも 主の愛を受けて輝く  
あふれる主の恵みは いついつまでも  
バラは バラのように スミレは スミレのように  
私も このままの姿で ついてゆきます
2. 空を飛ぶ鳥たちは 主の愛を歌いつづける  
あふれる感謝、喜びは いついつまでも  
鷺は 鷺のように スズメは スズメのように  
私も 主の誉め歌を 歌いつづける

新聖歌141番 「イエス君(きみ)は」

- 1 イエスキみは いとうるわし 天地(あめつち)の主なる  
神の御子 人の子を 何にかは たとえん
- 2 春の朝 露(つゆ)ににおう 花より美(うつく)し  
秋の夜 空に澄(す)む 月より さやけし
- 3 夏の夕 青葉(あおば)わたる 風より かぐわし  
冬の日 降り積もる 雪より きよけし
- 4 イエスキみは いとうるわし 天地(あめつち)の主こそ  
わが栄え わが冠(かむり) わが喜びなれ

アーメン

## 使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。  
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。  
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、  
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、  
三日目に死人のうちよりよみがえり、  
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。  
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。  
われは聖霊を信ず。  
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、  
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、  
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌230番 「十字架のもとぞ」

- 1 十字架のもとぞ いと安けき  
神の義と愛の 会えるところ 嵐吹くときの  
巖(いわお)のかげ 荒野の中なる わが隠れ家
- 2 十字架の上に われは仰(あお)ぐ  
わがため悩める 神の御子を たえにも尊(とうと)き  
神の愛よ 底(そこ)いも知られぬ 人の罪よ
- 3 十字架のかげに われは立ちて  
御顔(みかお)の光を 絶えず求めん  
この世(よ)のものみな 消(き)ゆる時も  
奇(くす)しく輝く その光を アーメン

## 主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌62番 「天(あま)つみ民も」

天(あま)つ み民も

地にある者も

父 子 御霊(みたま)の神をたたえよ

神をたたえよ

アーメン